第十四回

あなたにあいたくて
生まれてきた詩 コンクール

―ことばはやさしく、こころはふかく―

令和五(二〇二三)年度

作品集

装画　黒田 征太郎

第14回

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール

―ことばはやさしく、こころはふかく―

令和5（2023）年度

作　品　集

宗左近（そうさこん）

（一九一九～二〇〇六年）

北九州市戸畑区生まれ。本名は古賀照一（てるいち）

詩人、評論家、仏文学者、翻訳家。

東京大学哲学科卒業。詩集『炎える母』で歴程賞を受賞。晩年には『響灘』など一行詩の作品を発表。また古今東西を超えた美術評論を行い、著書に『日本の美 その夢と祈り』などがある。また翻訳ではエミール・ゾラ、モーパッサン、ロマン・ロラン、アガサ・クリスティの作品のほか、ロラン・バルト『表徴の帝国』なども手がけた。詩歌文学館賞、チカダ賞、北九州市民文化賞を受賞し、日本現代詩人会から「先達詩人」の顕彰を受けた。

みずかみ かずよ

（一九三五～一九八八年）

北九州市八幡東区生まれ。

詩人、児童文学作家。

幼稚園勤務のかたわら、詩や童話を書き始める。その後、児童文学誌「小さい旗」に参加。その作品は、小学校の国語教科書にも採用され、また児童合唱曲にもなった。詩集「いのち」で第五回丸山豊記念現代詩賞を受賞。代表作に「馬でかければ」「きんのストロー」「ごめんねキュービー」など。北九州市民文化賞を受賞。

この詩のコンクールは、北九州の生んだ詩人、宗左近（そうさこん）さんとみずかみかずよさんの業績を記念して行われるものです。

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」は、宗左近さんの編んだ詩集のタイトルから、「ことばはやさしく、こころはふかく」は、みずかみかずよさんのことばからいただきました。

目次

ごあいさつ　1

《小学生の部》

小さな池と大きな世界　芳賀　菫　2
にちにちそう　白石　あさひ　3
鉄棒のその先の　野入　桃子　4
おやすみ　カメレオン　能美　にな　5
夕日　前田　葉奈　6
新しいいのち　中島　優希　7
キャンプに行く前　廣田　海　8
天国と地ごく　井川　月椛　9
中休みのてるてるぼうず　増田　穂香　10
ドッバーン　廣田　夏　11
ぼくにできるかなぁ　押川　直暉　12
ぼくのとうさん　浦本　夏希　13
カメレオン　尾前　陽斗　14
おみそしる　中村　帆花　15
ピアノのねいろ　岩本　栞奈　16

《中学生の部》

リンゴ　澤野　美菜　18
真暗闇　西山　未羽　19
僕の家族　越智　偉央里　20
手を伸ばして　井上　心彩　21
歯車　佐野　智紀　22
父とドライブ　太田　百合花　23
なんてことのない一日に花を添えて　中嶋　勇太　24
君と向日葵の僕　北島　瑞季　25
反抗期な私　中村　綾花　26
水　渡邊　大地　27
夜　津田　琴実　28
考えのその後に　人見　真叶　29
父が最後にくれた宝物　黒田　真未　30
味のないチャーハン　堀口　惺羽　31
世界　篠崎　優里　32

選　評　34
小学生の部　受賞作品　36
最終候補作品　37
中学生の部　受賞作品　38
最終候補作品　39
選考委員　40

ごあいさつ

北九州市長　武内 和久

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールにおいて各賞を受賞された小・中学生の皆さん、そしてご家族の皆様、誠におめでとうございます。

また、開催に当たりご尽力いただきました平出隆先生をはじめ選考委員、関係の皆様に深く感謝を申し上げます。

このコンクールは、北九州市出身の詩人 宗 左近先生、みずかみかずよ先生を顕彰し、また、子どもたちの豊かな想像力や表現力を伸ばし、未来の詩人や作家が誕生することを願い、二〇一〇年度から開催しています。

十四回目を迎える今回は、全国から一，〇〇〇件を超える応募がありました。多くの素晴らしい作品が集まり、選考には、委員の皆様も大変ご苦労されたと伺っております。

小・中学生の皆さんは、このコンクールを通じて、創作し表現する面白さや奥深さを感じられたのではないでしょうか。これからもぜひ、文章を書く楽しみや喜びを持ち続けてもらいたいと思います。

ここで、市長である私自身の経験談を少しお話しします。実は、私は小学生時代、毎日、一篇の詩を書くことを習慣にしていました。

担任の先生が詩を大切にされた方で、毎日詩を書くことが宿題で、そのうち優れた作品を三つか四つ選んで、帰りの会でプリントして配ってくださいました。

学校の帰り道に見た「すすき」のこと、心に残った友達の言葉、大好きな夕ご飯、家族とのやりとりなど、毎日毎日、五感の感覚をそばだてて、詩の題材を探し、それを文字にしていた日々は、今振り返ると、かけがえのない時間でした。

世界は、美しいもの、愛おしいものに溢れています。

詩を創ることを通じて、これからも、新たな発見やいのちの素晴らしさに思いを馳せる、そんな時間を大切にしていただきたいと願っています。

北九州市としては、今後も、宗先生やみずかみ先生をはじめとする北九州ゆかりの文学者の功績を伝える活動を通じて、人々の心や暮らしに「豊かさ」や「ゆとり」を与える、文化芸術を生かしたまちづくりを進めてまいります。

引き続き、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

最優秀賞　宗左近賞

小さな池と大きな世界

国府台女子学院小学部　五年　芳賀　菫

ぴしゃぴしゃ
人間たちは楽しそうに遊んでいる
みんな笑顔でやっている
魚たちは一生懸命逃げている
人間たちはきゃっきゃと笑っている
にじますたちはどんどん苦しくなっていく
人間たちはおいしそうににじますを食べる
にじますたちはおいしそうにこけを食べる
にじますたちは仲間が食べられていくのを見る
人間たちは仲間がおいしそうに食べているのを見る
この小さな池の中で
にじますはつかまり
人間はつかまえる
この大きな世界の中で
魚はつかまり
人間は食べている

最優秀賞　みずかみかずよ賞

にちにちそう

敬愛小学校　一年　白石　あさひ

にちにちそうは
ゆきをかくす
おふとんみたい

赤いてんは
わたしは花だと
いっている

たくさん
たくさん
あつまって

みんなで
にちにち
にちにちそう

優秀賞

北九州市長賞

鉄棒のその先の

明治学園小学校　五年　野入　桃子

ぎゅっと　にぎりしめた手を
はなさないよう、
大地を蹴る

一回転。

私の世界が　ぐるりと変わった
すうっと　にぎられた手を
ふりほどいて、
私は走る

花と虫と　水たまり。

新しい世界に　触れてみたかったの
あなたはすこし　悲しそうにして、
それでも　ほほ笑む

行っておいで。

鉄棒のその先の
私の世界は　回り続けて
鉄棒のその先の
回っていたのは、

私だった。

ぎゅっと　にぎりしめた手に
願いをこめて、

きっと大丈夫。

鉄棒のその先の
未来を私は　生きてゆく

優秀賞

北九州市教育長賞

おやすみ　カメレオン

明治学園小学校　四年　能美　にな

わたしは　わたし
いつでも　わたし

朝のわたしは　新しい　わたし
　おはよう言うよ　新しい　わたし

登下校では　先ぱいの　わたし
　すこーしせのび　先ぱいの　わたし

じゅ業のときは　生徒の　わたし
　きまりをまもる　生徒の　わたし

休み時間は　友達の　わたし
　あやとり　かけっこ　友達の　わたし

クラブに行けば　後はいの　わたし
　あこがれ見つめる　後はいの　わたし

ばあばの家では　孫の　わたし
　あまやかされたい　孫の　わたし

わたしはかわる　まわりにあわせ
わたしはまるで　カメレオン

それでも　わたし
わたしは　わたし

家に帰って　おしゃべりするの
どんなわたしに　なったのか

明日起きれば　新しいわたし
くるくるかわった　昨日のわたしを
みんなとかして　まぜこんで
つぎのわたしに　かわっていくの

それまですこし　ひと休み
ゆっくり　おやすみ　カメレオン

優秀賞

北九州市立文学館長賞

夕日

北九州市立小倉中央小学校　二年　前田　葉奈

せいふくのブラウスが
オレンジ色にそまっていた
ああ　きれいだな

小倉じょうとビルのあいだに
見える夕日は　まるっこくて
夏にそだてた　ミニトマトみたいで
おいしそう

お母さんとおしゃべりしていたら
どんどんしずんで　行っちゃった

明日も　晴れるといいなあ

佳作

新しいいのち

北九州市立中原小学校　六年　中島　優希

いのちが生まれた
ぼくと十一才ちがいの新しいいのちが

かわいい口から出てくる大きな泣き声
まだ歩けないけれど
空をける力はだれよりも強い
あたたかいてのひらを広げて
何かを得ようと一生けん命のばすうで
成長を見のがすまいと見つめるぼくの横で
まんまるな目は
ずっと遠くの未来を見ている

そんな小さないのちを
ぼくは精いっぱい守る
ぼくも精いっぱい生きる

佳作

キャンプに行く前

和泉市立南池田小学校　二年　廣田　海

いつもと　はんたい
いつもは　外があかるくて　トンネルがくらい
今日は　外がくらくて　トンネルがあかるい

今は　朝の三時三十分
うしみつどきは　なん時？
うしみつどきは　なにがでる？
ねようとしても　ねられない

太ように　ちかづいていくよ
それを　わたしたちは　おいかけていく
がたがたがたがた
太ようは　本とうに　上がっていってるの？
じゃあ　それまで　どこにおったん？
かげが　びゅーうんて　のびる

わー　あれなに？
ジェットコースター
かんらん車

いもうとのもんだいは
いつでも　げきむずだ
ぼくがうたえるうたを　もってるよ
車のポケットには　前のりょ行の　思い出

すずしい　気もちいい
外の空気は　おいしい
外の空気　たべとった
ぱくぱく

気もちが　かわっていく
めっちゃ　たのしみ
キャンプファイヤー　したい

おそいかなあ　はよつかないかなあ
どんな生ものがいるのか
ドキドキわくわくする
いもうとと　ぎゅーって
かさなりあって　ねてたよ

佳作

天国と地ごく

粕屋町立仲原小学校　四年　井川　月椛

初めてサウナに入った
ドアを開けて一歩入ると
もわっとした空気が
体にくっついてきた
息苦しくて
思わず口に手を当てた
はだがじりじり熱くなり
日焼けすると心配だった
あせがだらだら
心ぞうドクドクを出たいけど
今すぐ地ごくを
げんかいまでがまんした

もうだめだと思ったとき
ドアを開けると
すずしい風が
すっと体をつきぬけた
つめたい水にザブンとつかると
一気に体温急降下
水風呂　天国　生きかえる

地球が熱くなっている
もしも地球が
サウナの世界になったなら
私の毎日　どうなるだろう

ひんやりタオルが首では足りず
全身ひんやりスーツで登校するかも
休み時間は外で遊べず
冷ぞう庫では　かくれんぼ
外のプールは　熱湯風呂で
鉄ぼうさわると　やけどする
ミンミンゼミは
キーンキーンと鳴いている
なぜかってスーツを着ているからよ
ひんやりスーツを着ているからよ

サウナの世界も
なんとかなるかも
それでもなくなると…
電気がなく一気に室温　急上しょう
家の中もあおそろしい
あの中もおそろしい
地ごくのサウナになるかもね

そんな世界は
ぜったいいやだ

サウナは
小屋の中だけで
外の世界は
すずしい世界であってほしい
外の世界は
気持ちい世界であってほしい

佳作

中休みのてるてるぼうず

北九州市立中島小学校　三年　増田　穂香

中休み
雨だった。

これじゃ理科のべんきょうができない。
そうだ！
てるてるぼうずをつくろう！

紙でてるてるぼうずをつくった。
まどにはった。
じゅぎょうがはじまった。

でも、雨はやまなかった。
時間がたった。
そしたら光がさした。

太ようだ。
青空もでた。
やったー！

晴れた！晴れた！
このままおいとけば
つぎの理科の時間は、
きっと晴れだ。

次のじゅぎょうは、ぜったいに。
日向と日かげのべんきょうするぞ。

次のじゅぎょうは、ぜったいに。

佳作

ドッバーン

和泉市立南池田小学校　五年　廣田　夏

ドッバーン
波と　たたかった
ふきとばされた
流れがはやかった
ドッバーン
しょっぱかった
砂まみれになった
パッシャーン
弱い波
おもんない
次の強い波を見てた
ドッバーン
流されるのが　楽しかった
ライフジャケットが　ういた
ひっくりかえった
クラゲのように　ういた
パッシャーン
ひき波と強い波が　出会うと
弱い波になる
ドッバーン
波の流れに　たえる
流されないように　行って　ふんばる
ドッバーン
それでも流された
ドッバーン
たえれた時に　楽しい
流されなかった時の
達成感
父に帰るよーと言われた時
残念だった
ああ楽しかった
ドッバーン
次の朝に見たら
もっと強くなってた
今日やりたかったな
アンパンを食べながら
父にやめときと言われた

佳作

ぼくにできるかなぁ

北九州市立曽根小学校　四年　押川　直暉

大きい　小さい箱　ドスドスッ

「火起こし　よろしく」
といいながら
よしあきおじちゃん　去って行く

大きい箱のバーベキューコンロ
お父さん　せっせと組み立てる

小さい箱の炭とチラシと木くずを入れて
火をつけた
パチパチパチ
すぐ消えた

チラシを新聞紙にかえてみる
パチパチ　ぽっ
火がついた
「炭をどんどん追かしろ」
よしあきおじちゃん　言いました
火がボーボーもえてきた

まだまだまだ　足りないよ

うちわでビュービュー風送る
炎が火山みたいにもえ上がる

「さぁ　やき肉始めるぞ」
成こう　成こう　うれしいなぁ

ギラギラまぶしい太陽が
お山の向こうにかくれんぼ

佳作

ぼくのとうさん

北九州市立曽根小学校　二年　浦本　夏希

とうさんは、メガネをかけているけどぼくは、メガネをかけてない。
とうさんは、ヒゲが生えているけどぼくは、生えていない。
とうさんは、かみのけが長いけどぼくは、みじかい。
とうさんは、せが高いけどぼくは、ひくい。
とうさんは、足がはやくてカッコイイ。
ぼくも足がはやくなりたい。
とうさんは、おこったらこわいけど、カッコイイ。
ぼくは、おこられたくないけど、カッコイイ大人になりたい。
ぼくは、とうさんとアイスホッケーをしているときがいちばんたのしい。
とうさんは、ぼくといちばんたのしいときはなにかな。
とうさん、しごとがんばってね。
ぼくも、とうさんみたいな大人になりたいから、サッカーと学校がんばる!!

佳作

カメレオン

北九州市立牧山小学校　二年　尾前　陽斗

ぼくは、きょうもかきごおりをたべる
レモンあじは、きいろいろ
メロンあじは、みどりいろ
ブルーハワイは、青いいろ
シャリ　シャリ　ヒヤリ　おいしいな
ピーチあじは、ももいろ
グレープあじは、むらさきいろ
オレンジあじは、だいだいいろ
シャリ　シャリ　ヒヤリ　たのしいな
どんどんたべるとかわっていく
ぼくのしたは、カメレオンみたい
きょうはなにあじにしようかな
シャリ　シャリ　ヒヤリ
あっかんべえ
ぼくのしたは、まっかっか

佳作

おみそしる

北九州市立貴船小学校　四年　中村　帆花

ぐつぐつぐつ
おなべがなる
ぐーぐーぐー
おなかがなる
とうふとわかめを切って入れる
グツグツグツ
みそを入れる
さらににこむ
グツグツグツ
ブクブクブク
そして味み
少しこいかな　まあいっか
おわんについだ
白いごはんといっしょに食べた
うーんおいしい
おばあちゃんもおいしそうと言ってくれた
自分で作ったおみそしる
世界で一番おいしいな

佳作

ピアノのねいろ

北九州市立大里柳小学校　三年　岩本　栞奈

ピアノのおとは、きれい
ピアノをひくたびに、きれい
がくふを見ると、きれいなおとが
とびだすよ。
グランドピアノや、でんしピアノ
いろんなピアノ　ぽろりん
大きなおとと、小さいおとも
なかよし
ペダルも、がくふも、いすだって
なかよしなのさ。
大きいおとたちも、なかよし
だから　みんな　なかよし
けんかは、するけれど、
みーんな、ともだちなのさ。

最優秀賞　宗左近賞

リンゴ

大阪教育大学附属池田中学校　二年　澤野　美菜

ここにリンゴがある。
そう、あのリンゴが。
私の好きな林檎が。
1人の男を発見者に、
2人の男女を罪人にした、
あのリンゴが。

小説『変身』のグレゴール・ザムザは、
父親にリンゴをなげつけられて亡くなった。
「リンゴ」
なぜリンゴにしたのだろう。
わからない。
リンゴは、
ある神話から「愛の象徴」とされる一方、
ある男女の神話から「罪の果実」とされる。
作者、カフカは何を伝えたかったのだろう。
わからない。
父親が毒虫になった息子を殺すことは
親なりのせめてもの「愛」なのか、
男が毒虫になったことは「罪」なのか、
親が変わり果てた姿になった息子を
愛せなかったことは「罪」なのか、
わからない。
家族を養うため自分を犠牲に仕事をしたのに
毒虫になったとたん家族に見放された男。
彼に比べたら私は幸せなんだろうか。
いったい幸せってなんなんだろうか。
私には分からない。
子供だから？
それはきっと違う。

私はもう1度リンゴを見つめる。
目の前にあるリンゴを。
1人の男を発見者に、
2人の男女を罪人にした、
あのリンゴを。

このリンゴは、母が切ってくれたものだ。
母も家族のため懸命に働いているのだろう。
―「いただきます」
いつもより少し大きな声で言った。
いつか、わからないたくさんのことが
わかるようになるといいな。
そう思いながら林檎を噛みしめる。
いつもより
林檎が美味しいような気がしたのは
気のせいなのかもしれない。
でも、
リンゴが大切なことを教えてくれたのは
確かなこと。

真暗闇

糸島市立志摩中学校　三年　西山　未羽

あまりにもまぶしくて
星をひとつ隠しているのかと思ったわ
今思えば、本当に隠していたのかもしれない。
幾千もの星が散る空が
すぐそこにあった。
ひとつ隠したくらいじゃきっと
きっと
だれも気づかなかったのね

これでも
出会えてよかったと思っているのよ
出会った瞬間に別れが約束されていたとしても
あなたを惜しいと思うわたしのこころの中は
もうしあわせでいっぱいだから。
かなしみが入りこむすきなんてないわ。

我慢しているわけじゃないのよ？
わたしはね、
うれしい時は涙を流すの。
流して、流して
涙がぜんぶなくなっちゃうから
もう残っていないだけなの。

ほら、振り返ってはだめよ
あなたが
わたしを置いて行くんじゃあない。
わたしがあなたに
追いつけなくなったの。

真暗闇のわたしのこころを
ぴかりと照らしたあなたはきっと
きっと
流れ星だったのね

優秀賞　北九州市長賞

僕の家族

福岡市立板付中学校　一年　越智　偉央里

茶色い体に黒いしましま
片足はいつも曲ったまま
でも、上手に三本足で歩く
おじいちゃんになって、
寝ている時間が長くなっても
頭をなでると、僕の方を見て
目を細めてうれしそうな表情をする。
ソファの上に長くなってゴロゴロする姿が
アザラシみたいだった。
病気になってからは、動くのも辛そうだった。
だけど、がんばってトイレまで歩いていた。
ある日、朝起きたら冷たくなっていた。
僕は泣いた。
でも、もう苦しくないよね。
おいしいご飯もたくさん食べれるね。
しばらく空でゆっくり休んで
いつかまた、僕の所に帰っておいで。
次来る時は
車に気を付けて、四本足でおいで。
帰って来たら、今度こそ
僕と一緒に寝ようね。
おもちゃでいっぱい遊ぼうね。
僕に会いにおいで。

優秀賞

北九州市教育長賞

手を伸ばして

八女市立上陽北汭学園　二年　井上　心彩

手を伸ばした
小さな小さな手で
大きな大きな人差し指を
ぎゅっとつかんだ

手を伸ばした
遠く遠くにあるはずの
クラゲのように浮かぶ雲が
なんだか
簡単につかめるような気がした

手を伸ばした
大きな夢をつかもうとしたけど
自分にできるのか不安になって
なんだか
つかむのが怖くなった

昔はあんなに
つかんで、
つかめるような気がしていたのに
つかんだら壊れるかもしれない
でも、つかめないままの自分に
悔しさを覚えた

手を伸ばした
誰かが震える私の手を
ぎゅっとつかんでくれた
お日様のように暖かかった
怖かったら強く手をつかめばいい
怖がっている人がいたら
優しく手をつかんであげればいい
きっと救い、救われるから

手を伸ばした
大きな夢を
暖かくなった手で
もう一度つかんでみようと思った

優秀賞　北九州市立文学館長賞

歯車

福岡市立板付中学校　二年　佐野　智紀

この世は大きな歯車がまわってできている。

そう思っていた。でも違った。この世は、小さな小さなたくさんの歯車でできている。

走ったとき、足に力が入って、地面をけって、進む。泣いたとき、なんだか悲しくなって、目が熱くなって、雫が落ちる。友達と遊んだとき、心がはじけて、体もはねて、嬉しくなる。雨が降ったとき、びしょ濡れになって、お日さまがかわかして、緑が育つ。動物が死んだとき、小さなものに食べられて、骨になって、土に還る。地球がまわったとき、おひさまがおきて、お月さまがねむる。誰かが空を見上げたとき、星達がきらりと返事をしてくれる。この一つ一つは小さな歯車が周りの小さな歯車と一緒にまわってできている。この世は小さな小さな歯車でつながっている。

私が今日を生きることで、また小さな歯車がガチャっと音をたてて廻る。

佳作

父とドライブ

立命館中学校　三年　太田　百合花

父とドライブ　私は運転手の隣に座る
横から見た顔は少し真剣で面白い
運転をしている時はちょっぴり静かな父

普段はとってもうるさいお父さん
変なダンスを踊ったり
下手な歌を歌ったり
家族を笑顔にさせたり
でもちょっと不器用な所があるお父さん

ドライブをする時、そのいつもの
「お父さん」とはまた違う父が見えてくる

私が全く知らない場所でも近道を知ってるお父さん
本当ははしゃぎたそうにしてるけど
我慢しているお父さん
中学三年生の娘とドライブにこれてることが実は一番嬉しいお父さん

私はそんなお父さんとドライブして
また新たな優しさを見つけていく

いつもは言えないけど本当はすごい尊敬しているお父さん

さそってくれてありがとう

佳作

なんてことのない一日に花を添えて

三田市立ゆりのき台中学校　三年　中嶋　勇太

夢を見た　紫色の花が一輪　草原の隅に
咲いている夢　気にせず準備し学校へ行く
今日もまた一日が始まる。

学校に着きふと見ると　花壇に薔薇が
力強く咲き誇っている　今の気持ちと
真逆の花を心に留めつつ教室へ　今日また
一日が始まる。

部活を終わらせ帰路につく　足取りは重く
疲れを纏い家を目指す　家に着き　荷物を
置いて　まったりと過ごし始める
そんな中　母親に言われ　テレビを見れば
松葉菊が映っている　美しさを覚え
一日を過ごして行く　今日もまた一日が
始まる。
宿題をする　疲れてはいるが　まだまだ
大丈夫と己を奮い立たせる　解けない
問題がいくつかあるが後でしっかり覚え
もう間違えないと決める　休憩中に
グラジオラスという花を見て心を和ませ
ながら　今日もまた一日が始まる。

風呂に入り疲れを落としてベッドに向かう
今日が終わり受験が近づく　将来への
不安を抑えて眠りへ向かう　今日も
いつものことをする　ヘメロカリスが一輪・
ヘメロカリスが二輪・・・今日もまた
一日が終わる

佳作

君と向日葵の僕

大木町立大木中学校　三年　北島　瑞季

僕が初めて光を浴びた日、
君は希望いっぱいの産声を上げた。
みんなに見守られながら
君と僕はこの世界に生まれた。

僕の背が高くなっていくと、
君は目をまるくして
不思議そうに僕を見つめた。
すやすやと眠る君
まるで本物の天使みたいだ。

僕は太陽のような花を咲かせた。
君は嬉しそうに庭いっぱい走り回った。
クレパスで描かれた僕。
初めて君が描く絵は
晴天の青空に咲く一輪の僕だった。

時が過ぎると
僕は生死を繰り返していた。
君はすっかり大人になって
新しい家族ができたみたいだ。
君の笑顔、君の泣き顔
ぜんぶぜんぶ、僕の宝物。

変わらない僕。
変わってゆく君。
僕は黄色のままだけど、
君は何色にも染まることができる。

大丈夫。大丈夫。
ゆっくり自分の色を探そう。
大丈夫。大丈夫。
君ならなんでもできる。

僕の言葉は君には届かない。
だけど僕は
君を信じてる。

佳作

反抗期な私

福岡市立板付中学校　一年　中村　綾花

私は六人家族
お父さん、お母さん
私と弟
おじいちゃん、おばあちゃん
でも
お父さんは一緒にいない
単身赴任だ
小さいころは
父と別れるのがいやで
泣いていたという
今はそうでもない
夏休み
お父さんの家へ行った
五日間一緒に過ごした
一日目
父とドライブ
二日目からは
父は仕事で
日中は母と弟と過ごした
夕方になると帰ってくる父
「ただいま」
「おかえり」
ん？
何だろう？
三日目
「ただいま」
「おかえり」
あれ？
四日目
「おかえり」
「ただいま」
五日目
「ただいま」
「おかえり」
一緒にご飯を食べて
話して
寝て
起きて
家族ってこうなんだ
父がいる何気ない毎日
幸せだ
離れてはいるが
いや、
離れているから
かな
冬休み
また会いに行こう

佳作

水

立命館中学校　三年　渡邊　大地

ある時は真っ暗で、ある時は明るい。僕の人生ってこんなものだと思う。ずっと暗くて明るい時なんて一瞬だ。

気がつくと僕は、いつものように細長い何かを通っていた。「通る」よりも他の奴らに「押されている」の方が正しいね。何かの力によって今日も僕は動いていた。何の意味があるのかわからないまま。その時、視界が明るくなった。そこは蛇口と呼ばれる出口だった。ゆっくりと落下している。まるでこれからの一生を表すかのように。そして僕らは大きい障害物にいる白い奴らめがけて飛び込んでいく。そしてそいつらと共に、更に下の穴へと落ちていく。こんな一生はつまらない。せめて誰かの役に立てたらいいのに。僕はつくづくそう思う。

だけどやっと気づいた。暗い時は過程であり、明るい時は誰かの役に立っているって

佳作

夜

立命館中学校　三年　津田　琴実

僕らが眠い船にのったとき

僕らが船からとびだせば
世界も一緒にとびおりる

夜の深い深いところで
空を見上げる充実感
周りの静寂を聞く特別感
夜の匂いがする安心感
夜食をたべる背徳感
おふとんに入る幸福感

僕らが幸せでお腹いっぱいになったとき
世界はゆっくり船をこぐ

僕らも船をこいだとき
世界は明日に向かいだす

佳作

考えのその後に

福岡市立板付中学校　二年　人見　真叶

私は「今生きている」、とふと感じる
ふと感じるとなぜという疑問が出てくる
その疑問とぶつかったとき
私は考える
なぜ今私は生きているのかと考えると
よくわからない
でもその「わからない」の奥に
何かが待っていると私は感じた
僕は「今生きている」と感じる
感じるといつも楽しい気持ちになる
その楽しい気持ちはどういうものかを
考えたとき
僕はわからなかった
でもその「楽しい気持ち」には
僕達にはない力があった
その力に僕は
何かがあると思った

ここで考えなければならない
「何かが待っている」
「その力」などという
別の考えでも
その後に出てくる答えを
自分で出すために
私達はうまれてきた
私はそう考える

佳作

父が最後にくれた宝物

福岡市立板付中学校　一年　黒田　真未

私は父から母へ送られた最後のプレゼント。そして母は私のことを『最後にもらった宝物』と言う。

私は父から母へ送られた最後のプレゼント。そして母は、『生まれてきてくれてありがとう』と言う。

私は父から母へ送られた最後のプレゼント。この題名にした理由。それは、母が私を産んで三年後、父は病気で天国へ旅立った事。

私は父から母へ送られた最後のプレゼント。その出来事があった後から母が言うようになった言葉・・・「まなちゃんはね、ひでくんがくれた最後の私の宝物」

私は父から母へ送られた最後のプレゼント。だから、私は、周りの人達、家族、そして自分自身の事を大切にしようと思う。

佳作

味のないチャーハン

北九州市立飛幡中学校　二年　堀口　惺羽

僕は作るいつものように
砂のようなチャーハンを

冷蔵庫からご飯と卵を取り出し
アツアツのフライパンに油を少し入れる
油が僕の所にジャンプしてくる
そこに入れた卵が助けてくれと言っている
ご飯を入れ
一つまみの塩とこしょう
いつものようにパラパラパラパラと
フライパンを煽る
そうこうしていたら完成だ

僕がこうしてチャーハンを食べている時
みんなはお母さんのご飯を食べている

僕もお母さんのご飯を食べてみたい
しかしそれは叶わない…
でも僕はこんな味のないチャーハンが
大好きだ

佳作

世界

北九州市立中央中学校　一年　篠崎　優里

時々考える
今、目の前に広がっている世界は
どのくらいの確率なんだろう

宇宙という世界ができて
地球という星が生まれて
生物が誕生した
そして、現在までそれが続いている

それは、ものすごい確率で
そんな世界で私たちは生きている

今、誰かと一緒にいること
今、誰かと笑い合えること
今、誰かとけんかすること
そのかけがえのない日常が本当に奇跡だ

大昔の世界で少しでも何かが違ったら
この世界はどうなっていたんだろう
他の星のように生き物が住めない世界だったかもしれない

今
この時間、
この世界は
もう二度と帰ってくることはない

何気ないこの瞬間が
本当に大切なものだ

そんな世界をこれからも生きていく

●選評●

平出隆

小学生の部の宗左近賞は、芳賀菫「小さな池と大きな世界」です。魚をとって食べる普通の生け簀も、「人間たちは」「にじますたちは」という客観的な語り口で、一気に宇宙論になります。「この小さな池の中で／にじますはつかまり／人間はつかまえる／この大きな世界の中で／魚はつかまり／人間は食べている」

みずかみかずよ賞は、白石あさひ「にちにちそう」です。短いけれど、ことばはシンプルだけど、とても美しい。どうしてこんなに美しいのか。一つの理由は、よくこの花を観察しているから。もう一つの理由は、自分のことばの響きや姿についても、よく見つめながら書いているから。そして、まだまだ理由がありそうです。

優秀賞から。前田葉奈「夕日」はきれいな時間をよく見つめています。「夏にそだてた　ミニトマトみたいで」と経験が生きているところもいい。夕日の落ちる速さが、全体の運びと色彩の変化を際立たせています。野入桃子「鉄棒のその先の」は鉄棒での運動を、生きていくことの、一回きりの大事な変化に見立てています。さらに回転運動のその先を見ようとして、題名もふくめて意欲的です。能美にな「おやすみカメレオン」は、「わたし」は何通りもいる、という誇らかな宣言のようです。変身への愉快なリズムにも、自信と活力があります。

中学生の部の宗左近賞は、澤野美菜「リンゴ」です。「母が切ってくれた」リンゴを前にして、「1人の男を発見者に、／2人の男女を罪人にした／あのリンゴ」という考えがめぐりはじめます。さらにはカフカの小説『変身』についての感想と考察も。たった

一つの果物をきっかけに、これほど多くの考えが、広がりをもって、しかもしっかりと組み立てられるとは。

みずかみかずよ賞は、西山未羽「真暗闇」です。大切な存在をなくしてしまった時間の中に、語り手はいるようです。ですが、この詩は、喪失を「かなしみ」ではなく、「しあわせ」に置き換えるという尊いことをしています。消えた存在がほんとうに星だったのだとする、その語りかけの声の美しさに注目してください。

優秀賞から。越智偉央里「僕の家族」は、病気で死んだ三本足の動物への語りかけです。「次来る時は／車に気を付けて、四本足でおいで」というところ、泣かせるね。井上心彩「手を伸ばして」は、つかめるようでつかめない遠くの雲や大きな夢との関係を、みずみずしく語っています。そして、つかめないでいる手をつかんでくれた誰かの手。佐野智紀「歯車」は、世界が大きな歯車ではなく小さな歯車でできていることの発見です。その喜びで、散文形式なのに心地よいリズムがあります。

©Takashi Mochizuki/©望月　孝

平出（ひらいで）　隆（たかし）

北九州市門司区生まれ。詩人・作家・多摩美術大学名誉教授。装幀家、造本家としても知られる。
一橋大学在学中から詩と詩論を発表しデビュー。1974年に仲間とともに版元・書紀書林を構え、翌年、詩誌「書紀」を発刊。70年代の詩的ラディカリズムの先端を担う活動を展開。
詩誌『胡桃の戦意のために』で芸術選奨文部大臣新人賞、散文作品集『左手日記例言』で読売文学賞、散文集『ベルリンの瞬間』で紀行文学大賞、評伝『伊良子清白』で芸術選奨文部大臣賞、藤村記念歴程賞など受賞多数。また木山捷平文学賞を受賞した小説『猫の客』が2014年、世界的ベストセラーとなった。

小学生の部

受賞作品

最優秀賞
宗左近賞
小さな池と大きな世界
芳賀 菫（国府台女子学院小学部 五年）

最優秀賞
みずかみかずよ賞
にちにちそう
白石 あさひ（敬愛小学校 一年）

優秀賞
北九州市長賞
鉄棒のその先の
野入 桃子（明治学園小学校 五年）

優秀賞
北九州市教育長賞
おやすみ　カメレオン
能美 にな（明治学園小学校 四年）

優秀賞
北九州市立文学館長賞
夕日
前田 葉奈（北九州市立小倉中央小学校 二年）

佳作
新しいいのち
中島 優希（北九州市立中原小学校 六年）

キャンプに行く前
廣田 海（和泉市立南池田小学校 二年）

天国と地ごく
井川 月椛（粕屋町立仲原小学校 四年）

中休みのてるてるぼうず
増田 穂香（北九州市立中島小学校 三年）

ドッバーン
廣田 夏（和泉市立南池田小学校 五年）

ぼくにできるかなぁ
押川 直暉（北九州市立曽根小学校 四年）

ぼくのとうさん
浦本 夏希（北九州市立曽根小学校 二年）

カメレオン
尾前 陽斗（北九州市立牧山小学校 二年）

おみそしる
中村 帆花（北九州市立貴船小学校 四年）

ピアノのねいろ
岩本 栞奈（北九州市立大里柳小学校 三年）

学校団体賞

北九州市立貴船小学校
北九州市立中島小学校

最終候補作品

よしよし、ぎゅう　畑辺直葉　武蔵野市立大野田小学校　二年

家族　高岩智志　敬愛小学校　三年

ぽたぽたぽた　山口結愛　北九州市立貴船小学校　四年

かぶ太ろうの生活　佐々木遼　北九州市立中島小学校　三年

ひまわり　下之薗翔大　北九州市立企救丘小学校　六年

はずかしい　坪谷陽華　北九州市立中島小学校　四年

夏休みの宿題　石田昊冬熙　北九州市立西小倉小学校　六年

キャンプ　飯田頼嘉　北九州市立貴船小学校　四年

球場へ行く電車　椎原優真　鹿児島三育小学校　四年

すみません　東舘世莉　北九州市立中島小学校　三年

小学生の部　応募総数　九十二点

中学生の部

受賞作品

賞	作品	作者	学校	学年
最優秀賞 宗左近賞	リンゴ	澤野美菜	大阪教育大学附属池田中学校	二年
最優秀賞 みずかみかずよ賞	真暗闇	西山未羽	糸島市立志摩中学校	三年
優秀賞 北九州市長賞	僕の家族	越智偉央里	福岡市立板付中学校	一年
優秀賞 北九州市教育長賞	手を伸ばして	井上心彩	八女市立上陽北汲学園	二年
優秀賞 北九州市立文学館長賞	歯車	佐野智紀	福岡市立板付中学校	二年
佳作	父とドライブ	太田百合花	立命館中学校	三年
	なんてことのない一日に花を添えて	中嶋勇太	三田市立ゆりのき台中学校	三年
	君と向日葵の僕	北島瑞季	大木町立大木中学校	三年
	反抗期な私	中村綾花	福岡市立板付中学校	一年
	水	渡邊大地	立命館中学校	三年
	夜	津田琴実	立命館中学校	三年
	考えのその後に	人見真叶	福岡市立板付中学校	二年
	父が最後にくれた宝物	黒田真未	福岡市立板付中学校	一年
	味のないチャーハン	堀口惺羽	北九州市立飛幡中学校	二年
	世界	篠崎優里	北九州市立中央中学校	一年

学校団体賞

福岡市立板付中学校
立命館中学校

最終候補作品

それだけ大事やねん	山本花恋	立命館中学校 三年
大好きなお父さんお母さん	魚田栞桜	北九州市立 松ヶ江中学校 二年
雨粒	神谷幸希	北九州市立 飛幡中学校 二年
こゆき	藤倉恒太	北九州市立 飛幡中学校 二年
四季のパレット	前田菜月	立命館中学校 三年
とわのあこがれ	前川碧音	筑波大学附属 桐が丘特別支援学校 中学部 一年
いちにち	村田楽円	北九州市立 広徳中学校 二年
私は私のままで	友添さや	福岡市立 板付中学校 一年
パリパリパリッ　パキパキパキッ	河端心海	福岡市立 板付中学校 一年
全部、君のせい	松永結希	東京学芸大学附属 国際中等教育学校 二年
めんどうくさい	谷口カンナ	北九州市 中学校 二年
未来へ進む針	佐藤心	北九州市立 松ヶ江中学校 二年
感情	山下莉緒	福岡市立 板付中学校 二年
余命五分	津曲弥生	北九州市立 飛幡中学校 二年
最低な論文紹介	杉之下結帆	立命館中学校 三年
甲子園の「声」	冬木綜介	立命館中学校 三年
お盆	馬場愛徠	北九州市立 中央中学校 一年

中学生の部　応募総数 一一一四点

選考委員

最終選考委員

平出　隆

二次選考委員

鷹取美保子
大川内夏樹
岩下祥子
内川龍生
増本美和

一次選考委員

鷹取美保子
大川内夏樹
岩下祥子

第十四回
「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール

—ことばはやさしく、こころはふかく—

令和五年度

作品集

二〇二四年一月三十一日発行

編集・発行

北九州市立文学館

〒八〇三―〇八一三

北九州市小倉北区城内四番一号

TEL　〇九三―五七一―一五〇五

FAX　〇九三―五七一―一五二五

印刷・製本　株式会社 エディックス

※本書掲載の記事及び写真の無断転載・複製を禁じます。

北九州市立
文学館
Kitakyushu
Literature Museum

No.2310078A